

## 登熟の差が大きい！稲をよく観察し適期の刈取りを！

- 出穂が早く、出穂後の8月上旬は高温・多照 ⇒ 登熟が進む
- 8月中旬以降は低温～平年並・寡照 ⇒ 登熟が緩慢  
⇒ 出穂時期や籾数により登熟進度の差が大きい

**ほ場ごとに適期を見極め、計画的に刈取りを進めましょう！**

### 籾数は平年並～やや多い、出穂時期により登熟進度の差が大きい。

- 出穂は、平坦部「はえぬき」が8月3日頃、「雪若丸」が8月3日頃、「つや姫」、「コシヒカリ」が8月8日頃と平年より2日程度早くなりました。
- m<sup>2</sup>あたり籾数は各品種とも、平年並～やや多い状況ですが、圃場間でバラつきがみられます。
- 早生品種を中心に、出穂後の高温・多照により登熟は進みましたが、8月10日頃からの低温・寡照で、登熟は緩慢になっています。

### 農業技術普及課 生育診断圃 穂揃期の生育・登熟状況

品種	地域	年次	出穂期	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂籾数 (粒)	m <sup>2</sup> あたり籾数 (百粒/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD)
はえぬき	川西町 上小松	R3	8/2	564	67.9	383	33.6
		平年	8/5	574	69.7	399	35.2
		平年比・差	-3	98	97	96	-1.6
	飯豊町 椿	R3	7/28	576	68.3	393	37.5
		平年	8/3	535	72.3	387	34.6
		平年比・差	-6	108	94	102	+2.9
つや姫	川西町 黒川	R3	8/8	482	68.0	328	31.8
		平年	8/10	462	72.5	335	32.9
		平年比・差	-2	104	94	98	-1.1
	飯豊町 椿	R3	8/6	552	70.0	386	30.3
		平年	8/10	468	71.4	334	32.3
		平年比・差	-4	118	98	116	-2.0
雪若丸	高畠町 山崎	R3	8/1	489	64.7	316	35.8
		指標	8/2	560	54.0	300	36.0
		指標比・差	-1	87	120	105	-0.2
	飯豊町 椿	R3	7/27	666	57.2	381	37.2
		指標	8/2	560	54.0	300	36.0
		指標比・差	-6	119	106	127	+1.2

## 稲をよく観察し適期刈取！

○刈取りは、出穂後の積算気温（下表）を目安とし、品種、ほ場ごとに

- ①刈始めの青籾歩合、②籾水分（25%以下）、③枝梗の黄化（3分の2以上）等を確認し、刈取開始時期を見極めましょう。

出穂後積算気温による刈取適期の目安（平坦：高畠アメダス、中山間：高峰アメダス）

品種名	積算気温	刈始めの青籾歩合	出穂期（本年）	刈取り時期の目安
ひとめぼれ	950～ <b>1,100℃</b>	15%	8月1日頃	9月10日～9月17日
はえぬき（平坦）	950～ <b>1,200℃</b>	20%	8月3日頃	9月13日～9月25日
はえぬき（中山間）			8月5日頃	9月18日～10月3日
雪若丸	950～ <b>1,200℃</b>	20%	8月3日頃	9月13日～9月25日
つや姫	1,000～ <b>1,200℃</b>	15%	8月8日頃	9月23日～10月7日
コシヒカリ	1,000～ <b>1,200℃</b>	15%	8月8日頃	9月23日～10月7日

※8月24日まで実測値、以降は平年値の平均気温を使用。

## 乾燥・調製は慎重に！

- 収穫後は、速やかに乾燥機に張り込むことが基本ですが、すぐに乾燥できない場合には通風・循環を行い、ヤケ米の発生を防ぎます。
- 高水分籾（水分25%以上）を急激に乾燥すると胴割れしやすくなるので注意が必要です。青籾が多い（籾水分のバラつきが多い）場合は、「水分の戻り」に注意し、「夜間休止乾燥」や「二段乾燥」を行いましょう。
- 籾すりは、籾を十分放冷し、適正水分であることを確認してから行います。籾すり前に必ず試しすりを行い、肌ずれや胴割れの発生を防ぎましょう。
- 良質米生産のために、**1.90mm網目（LL）以上で選別します。**

## 雑草イネの発生に注意！

穂を触ったら籾がポロポロ落ちる、

玄米に赤米が混じる場合は雑草イネの可能性大！

置賜地域で主に赤いノゲが特徴の「背高型」と栽培品種とほぼ見た目が一緒の「擬態型」の2種の雑草イネが確認されています。

雑草イネを見つけた場合は、すぐに最寄りの普及課やJAにご相談ください。



## STOP！農作業事故！～あせらず！気もまず！農作業！～

- 収穫期はコンバインの事故が多発します。補助者の事故にも要注意。
- コンバインの詰まり除去や修理の際は、必ずエンジンを止めてから行いましょう。